

懇親会という名の暗闇を皆で光る棒を前後にかざしながら回遊する妙な空間も実に筑波系だった。私はまんまとはまってしまつてぐるぐるぐるぐる回つた。ふと周りを見ると、私だけじゃなく他の皆さんもけっこうはまつてたように思われた。

さて肝心の発表では、通総研の清川氏の光学透過型HMDに関するものが、東大の前田先生も「よくぞこまで」とコメントされていたのと同感で、私の中では特に印象に残った。展示会場では、基本的にモノが好きな私は、いろんな最新装置をいじらせてもらえたので、心より楽しませてもらった。

とにもかくにも筑波系を堪能させていただいた3日間だった。

## ◆次回大会長より

### 竹田仰

第6回大会長（長崎総合科学大学）

第5回大会は、つくばという研究学園都市で開催されたためか、大会雰囲気最初からやや緊張した研究発表のために、この地を訪れたという真剣なものがありました。懇親会場での、全員参加のゲームの試みは大会長を始め研究学園都市に根ざした先生方にふさわしいイベントであったと思います。

さて、来年の第6回大会は、新しい世紀の記念すべき大会にも当たり、否か応でも緊張が高まります。しかし、場所が、長崎だけに何となく<グラバー園>とか、<港町>とか<チャンポン>とか、研究発表より、異国情緒豊かな観光や夜の飲食街のイメージが沸々と湧くのも事実です。VR学会の皆様は、このような多様性をもつ長崎に是非お越しいただき、身も心も丸かじりで長崎を味わっていただけたらと思います。

来年4月には、長崎ペンギン水族館もオープンします。ここに、7m×3.5mスクリーンの3Dバーチャル水族館を作ります。見学コースにとっております。

## ◆アンケート集計結果

### 矢野博明

幹事（筑波大学）

本大会では、参加者の皆様にアンケートへのご協力をお願いいたしました。72名の方から回答をいただきました。ご回答くださった皆様にお礼申し上げます（Tシャツ

の当選者の発表は発送をもって換えさせていただきました）。

主だった集計結果をご報告させていただきます。

質問1：大会でよかったものを5段階評価でお答えください。

に対するお答えを平均し、分散を考慮して幅を持たせたグラフを図1に示します。

会場については、良かったというご意見を多くいただきましたが、お食事処が少ない、交通アクセスが不便というご不満をもたれた方もいらっしゃいました。口頭発表会場については、AV機器が充実していて良いなどおおむね良いご意見をいただきましたが、机がほしい、マイクがあと一本ほしかったなどのご意見をいただきました。休み時間などにはコーヒーサービスを行っていましたが、量が少ない、場所がわからなかったなど不満をもたれた方が大勢いらっしゃいました。きめ細かな部分で行き届いていない点がございました。申し訳ございませんでした。

また、招待講演、懇親会は大変好評でした。全員参加型ゲームはVRならではの、手作りの感じがとてもよいと大変好評でした。一方で、懇親会参加費が高い、料理が取りにくかったといったご意見もいただきました。

また、他の学会と連続していたり、大学入試などと日程が重なり、ゆっくり参加できなかった方もいらっしゃいました。

昨年に引き続きホームページを使った登録や情報提供を行っていましたが、簡単に登録できてよかったなどおおむね好意的なご意見をいただきました。しかし、ホームページを探すのに苦労した、背景が黒で印刷に困った、登録がうまくいかなかった、などご迷惑をおかけした方がいらっしゃいました。

口頭発表の内容につきましては、大変ためになった、多彩なバックグラウンドの人々と議論できて非常に有意義だった、興味深い発表がたくさんあったなど嬉しいご意見がある反面、発表時間が短い、玉石混合の感がぬぐえないので査読を導入してはどうか、論文集が分厚すぎるといったご意見もありました。発表時間については、セッション数を増やすなどが考えられます。また、本年はプロジェクトとPCを使った発表が多く、その切り替えで時間がかかったことも大きな要因だったようです。OHP中心からPC中心の発表への転換期でもあり、なかなか一筋縄では行きませんが、トラブルが発生することも考慮に入れて入念な準備をすることが大切なのではないかと感じました。査読については今後慎重に検討する必要があると思います。論文集については、一件あたりのページ数を少なくす